

181年

光和四年（漢）

皇帝

劉宏（漢靈帝）

皇后

何氏（諱某）

皇太子

（空位）

三公

太尉：劉寬(前衛尉・179~181) 許[有或*](前衛尉・181~182)

司徒：楊賜(前光祿勳・179~181) 陳耽(前太常・181~182)

司空：張濟(前太常・179~184)

その他の要職

太常：陳耽

光祿勳：

衛尉：許[有或*]

大僕：

廷尉：

大鴻臚：

宗正：

大司農：

少府：

執金吾：

車騎將軍：何真（追号） 前年娘の何氏が皇后に立てられたことを受けたもの

地方官

交州刺史：朱儁

主な事件

- ▶ 春正月癸酉、初めて祿*驥厩*丞を置く。郡国で徴発した馬を受けた。馬の値が高騰し売買に支障が出た。馬一匹二百万に至った《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 二月、郡国が芝英草を上した《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 夏四月、天下に大赦した《後漢書孝靈帝紀》

交趾で刺史の朱雋は交趾郡と合浦郡の烏滸蛮を討ち、之を破る《後漢書孝靈帝紀》

- ▶ 六月庚辰、雨雹が降る。注に引く続漢書には雹は大きく鶏の雛ぐらいだったという《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 秋七月、河南郡において鳳凰が新城で見られ、之に群鳥が随従していたと言う。新城の令及び三老に力田帛を各々各差をつけて下賜した《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 九月庚寅朔、日食があった《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 太尉の劉寛が免じられ、衛尉の許[有或*]が太尉となる《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 閏月辛酉、北宮の東掖庭にある永巷署に災いがあった。注に引く永巷とは宮中の署の名で、漢官儀に曰く令一人、宦官がなるもので秩六百石、宮の婢侍使を司った《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 司徒の楊賜が罷めた《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 冬十月、太常の陳耽を司徒と為す《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 鮮卑が幽州と并州を侵す《後漢書孝靈帝紀》
-
- ▶ この年、皇帝の劉宏は後宮において列を作り、諸采女に販売をさせ、更に窃盗鬪争しあわせた。皇帝である劉宏は商人の服を着て宴を楽しんだ。また西園において進賢冠（注に引く三礼図によれば文官の服で、前高7寸、後高3寸、長さ8尺）を着せた狗で遊び、綬を授けた。また四頭立ての駕を皇帝自らが操縦し走り回った。京師では伝え聞いてまねるものがいた《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ この年、皇后の何氏の父真を車騎將軍、舞陽宣德侯に追號した。后母を舞陽君と為す《後漢書皇后紀靈思何皇后》
 - ▶ この年、王美人は皇子劉協を生む。何皇后は美人を毒殺し、靈帝は大いに怒り、廢后せんとするも諸宦官がなだめたので止めた。劉協は董太后に育てられ董侯と号す《後漢書皇后紀靈思何皇后》

誕生者

劉協：漢獻帝

死没者

劉元：梁国の敬王。在位16年。子の劉彌が嗣ぐ。

王美人：靈帝の皇后。劉協の実母。

[PAGE TOP](#)

[180年 <<](#) [>> 182年](#)